

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 **COSPAR分科会** 更新日 **2012/6/30**  
(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) **宇宙空間研究委員会**  
(欧文) **Committee on Space Research**  
(略称) **COSPAR**

日本学術会議加入年(西暦) **1959** 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) **代表者会議(The Council)**

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Giovanni Bignami		Robert Lin, Ji Wu	J.-L. Fellous
(国)	イタリア		米、中国	フランス

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

代表者会議(The Council)から推薦委員会(5名のメンバー)が選ばれて、推薦委員会は選挙の2ヶ月前に、代表者会議に会長(委員長)候補者を推薦する。代表者会議の選挙により、会長が選ばれる。2名の副会長、6名の他のBureauメンバー、財務委員長も代表者会議で選出される。

加入国・地域の数 **46** ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

アメリカ、ロシア、中国、日本、フランス、ドイツ、イギリス、イタリア、インド、カナダ(分担金上位国を列举した)

国際学術団体のホームページURL **<http://cosparhq.cnes.fr/>**

国際学術団体の年間運営経費

**782,450 Euro**  
(2012年は総会年になるため高い)

日本の分担予定額【事務局で記入】

**2,175千円(2012年度)**

## 国際学術団体の活動状況

### 総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2010	科学総会	ドイツ ブレーメン市	3003名	250名以上	無
2008	科学総会	カナダ モントリオール市	2427名	200名以上	無
2006	科学総会	中国 北京市	3705名	246名	無
2004	科学総会	フランス パリ市	2800名	256名	無
2002	科学総会	アメリカ合衆国 ヒューストン市	16146名 (IAF共催)	180名	無

### 運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012	理事会	フランス パリ市	6ヶ国以上	佐々木晶	1
2011	理事会	フランス パリ市	6ヶ国以上	佐々木晶	0
2010	代表者会議	ドイツ ブレーメン市	20ヶ国以上	佐々木晶 中村卓司	2
2008	代表者会議	カナダ モントリオール市	20ヶ国以上	佐々木晶	1
2006	代表者会議	中国 北京市	20ヶ国以上	小杉健郎	2

### 出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

- 1 定期的(年3回) Space Research Today
- 2 不定期(年7-8回) Advances in Space Research

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;"><b>国際機関等の提唱で行った活動</b></p> <p>ISOの大気モデル構築活動において代表活動や科学的助言を行った(2006)。放射線帯環境モデル作成委員会が、現在の放射線帯モデルをアップデートへの貢献を行った(2005)。</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際機関等への提言等</b></p> <p>COSPARは、CUPUOS宇宙空間平和利用委員会に対して宇宙科学に関する報告および助言を行っている。2006年のCOSPAR総会では、各国の宇宙機関を集めて「新時代宇宙探査における国際科学協力の方法と枠組の形成」円卓会議を組織して、意見の提出を行った。</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際事業等への参加・実施等</b></p> <p>GEO/GEOSSへの参加。国際太陽年では、COSPAR会長が国際助言委員会の議長として貢献するとともに、様々な活動成果がCOSPAR総会で報告された。国際標準化機構の大気モデルに対する議論に対して、2006年に助言を与えた。UNESCO世界天文年(2009)への参加。</p>
<p style="text-align: center;"><b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b></p> <p>CSAC(COSPAR Scientific Advisory Committee)を新設し、2006年より世界的研究課題についての議論を行っている。具体的には、国際関係のモデルの構築、様々な科学計画における国際参加の枠組みの構築、予算の最適化における国際協調の促進、各国政府や諸機関に長期的なビジョンに基づく策定が競争力と実力の維持のために重要であることを理解させること。2011年の東日本大震災では観測データを集めたGEOのSuperSiteの立ち上げに協力。関連記事を機関誌Space Research Todayに掲載。</p>
<p style="text-align: center;"><b>発展途上国への対応</b></p> <p>COSPAR科学総会では、469000ユーロを発展途上国、旧共産圏諸国の参加者へ支援を行っている。能力構築ワークショップを17回(2001-2012)開催・計画している。開催国は、ブラジル、インド、中国、南アフリカ、モロッコ、ルーマニア、ウルグアイ、エジプト、マレーシア、アルゼンチンである。COSPARでは、2013年より奇数年に、テーマを絞ったシンポジウムを発展途上国などで開催することになり、第1回はタイで拓かれる。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>COSPARでは、現在8つの科学コミッションがあり、総会ごとに重要な科学テーマを選んで議論を行っている。重要課題の例としては、「気候変動」「月探査」「大気観測ミッション、データ解析と大気モデル構築」「大規模将来天体物理学観測計画の実現への開発と協力」である。</p>
--

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
Science Advisory Committee Member	西田篤弘	2010	2014
Bureau Member	佐々木晶	2010	2014
Science Advisory Committee Member	松尾弘毅	2006	2010
Bureau Member	小杉健郎	2002	2006
Vice President (副会長)	西田篤弘	1994	2002

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 COSPAR分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

なし

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
地球電磁気地球惑星 圏学会	800	<a href="http://www.sgepss.org/sgepss/">http://www.sgepss.org/sgepss/</a>
日本天文学会	3000	<a href="http://www.asj.or.jp/">http://www.asj.or.jp/</a>
日本惑星科学会	600	<a href="https://www.wakusei.jp/">https://www.wakusei.jp/</a>
日本物理学会	19000	<a href="http://www.soc.nii.ac.jp/jps/">http://www.soc.nii.ac.jp/jps/</a>
日本マイクログラフィ ティ応用学会	315	<a href="http://www.jasma.info/">http://www.jasma.info/</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名	COSPAR分科会
所属分野別委員会	地球惑星科学委員会

### 分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
佐々木晶	吉田哲也		

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	5	2

### 分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

宇宙基本計画の下での日本の宇宙科学とその国際協力の推進  
 COSPAR Award/Medalの推薦のとりまとめ  
 2010年、2012年COSPAR科学総会に対する取り組み(参加者・分野の増加をはかる、日本の宇宙科学の広報)  
 宇宙開発研究における宇宙科学の役割について議論

### 今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2011/6/30	COSPAR 理事会、Science Advisory Committeeからの報告 JAXAなどの震災被害・対応 地球観測・データ 宇宙組織改変に伴う、探査の中での科学の位置づけ アメリカのDecadal Surveyの報告
2010/8/19	COSPAR総会・代表者会議報告 Commission, Science Advisory Committeeからの報告 COSPAR Award候補 宇宙計画の動向
2009/10/26	特任連携会員の申請の変更について COSPAR Award候補 天文学・宇宙物理学の展望と長期計画 COSPAR役員選挙 2010年COSPAR科学総会に向けての活動 最近のISAS/JAXAの動きについて
2009/7/30	役員を選出 COSPAR Award候補 宇宙基本計画について 2010年COSPAR科学総会に向けての活動 (報告) ISTS2009
2008/09/19(昨期)	COSPAR総会・代表者会議報告 Space Research in Japanの編集について 宇宙科学関連学協会への呼びかけ COSPARを通じた活動, その他 ISTS2009の開催

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

COSPARの活動の報告や、科学総会の案内は、関連各学協会やメーリングリストを活用して周知している。JAXAではCOSPAR科学総会への学生派遣プログラムを行っている。  
COSPARの紹介およびCOSPAR分科会の活動について、地球惑星科学連合のホームページを通じて広報を行っている。  
COSPARのAward/Medalの推薦の募集の呼びかけを行っている。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

COSPARの活動報告や、科学総会の案内は、関連各学協会を通じて周知している。  
2008年には宇宙基本法のもとでの「宇宙基本計画」に宇宙科学を盛り込み存在度を高くするという目的で、COSPAR小委員会（分科会昇格前）から各学協会に対して、声明の呼びかけをおこなった。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

人工衛星、ロケット、気球を用いた広範囲の分野の宇宙空間の科学研究が対象であるため、分野間でのコミュニケーションを深める活動は、前身の研連時代から引き続き行っている。それに加えて、主体的な働きかけを行う活動を始めた。2008年に、「宇宙基本計画」に対する声明の呼びかけを行ったことは具体的な活動として評価できる。科学総会には継続的に200名を越える日本人研究者の参加があり、これはCOSPARが広報活動によって認知されている結果である。